

令和7年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(幡羅中学校)

平均正答率

1 自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
幡羅中	上回った	上回った	下回った	上回った	上回った	同等	上回った	やや上回った
埼玉県	62.5	54.6	57.0	52.0	51.5	56.7	60.2	51.5

2 自校の学力レベルと県の学力レベル

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
幡羅中	8-C	8-B	8-A	7-C	7-A	8-B	9-C	10-C
埼玉県	8-C	8-C	8-A	6-A	7-A	8-B	9-C	10-C

3 自校の学力の伸びと県の学力の伸び

教科	国語			数学			英語	
学年	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
幡羅中		3	2		3	2		2
埼玉県	3	1	2	1	4	2		3

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値(単位 %)

		中1		中2		中3	
	質 問 事 項	幡羅中	埼玉県	幡羅中	埼玉県	幡羅中	埼玉県
深谷の子6つの誓い	・将来の夢や目標を持っている	80.1	83.2	65.6	72.6	77.7	70.3
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	76.2	72.5	70.6	68.9	65.2	67.0
	・誰に対しても進んで挨拶をすることができている	89.7	88.1	85.9	88.1	92.5	87.5
	・脱いだはき物のかかとをそろえることができている	94.2	89.6	96.0	91.6	96.6	93.1
	・相手の気持ちやその場の状況を考え、優しい言葉遣いができている	94.2	89.5	96.6	90.9	94.3	90.8
	・勉強するときは、最初に計画を立ててから始める	63.5	49.1	46.4	47.8	54.9	47.3
	・休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している(塾等を含む)	67.9	63.0	60.5	61.6	70.3	69.1
学習等への関心	・授業で学んだことを、日常の生活に生かせると感じた	84.6	74.2	61.0	57.0	70.3	63.3
	・将来どの学校まで進みたいと思いますか【大学以上】	45.5	46.2	42.4	50.8	54.9	58.5
	・県や地域の歴史や自然に関心をもっている	76.3	57.5	50.3	47.4	54.3	41.3
授業について	・授業を通して学んだ内容についてさらに詳しく知りたい、学びたいと思った	77.5	68.3	71.2	61.2	68.0	64.2
	・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをもてるようになった	85.3	84.6	83.0	79.5	82.3	84.0
	・国語や数学、英語の授業で、週1～2回程度以上タブレットを使っていた(3項目の平均)	61.6	60.5	49.0	37.5	39.2	42.2
	・昨年度、週2回以上、タブレットを家に持ち帰って、宿題含めて学習に利用した	53.9	26.0	18.6	13.5	16.6	13.8
その他	・学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれた	94.8	95.6	98.3	96.3	97.2	95.8
	・学校の友達らは自分のよいところを認めてくれた	91.7	93.7	95.0	94.3	93.7	94.6
	・学級での生活は楽しい	96.1	93.1	93.2	94.0	96.0	92.8

【質問紙分析】

- ・3年生で「将来の夢や目標を持っている」割合が県の割合と比べて高くなるのは、2年生での「職場体験学習」や「立志の会」に向けての取り組みにおいて、真摯に自分と向き合い、未来の自分の姿を描くことができた成果であると考えられる。
- ・「脱いだはき物のかかとをそろえることができる」項目が3学年とも90%を超えているのは、生徒会での取り組みの成果と考えられる。
- ・「地域の歴史や自然に関心をもっている」項目が県の平均を上回っているのは、各学年における「ふるさと教育」の成果であると考えられる。
- ・「授業で、ほぼ毎回タブレットを使っていた」割合が低いのは、教師のICTを活用する力に差があったり、必要性を感じていなかったりすることが原因であると考えられる。「個別最適な学び」の実践に向けて、教員のICT活用能力を向上していくための研修を行う必要がある。

伸びが見られた学級・教科での取組

【国語】

- ・2年生の伸びの割合が県に比べて高かった。特に「文節の関係を理解する」の正答率が県平均より19.0%高い。生徒質問紙における「授業を通して学んだ内容についてさらに詳しく知りたい、学びたいと思った」の項目では、1年生では9.2%、2年生では10.0%、3年生では3.8%県平均より上回っている。3年生も「助動詞の働きを理解する」の平均正答率が高く、学校のエデュケーション全体を通して、基礎・基本の定着、反復学習が行われている成果であると考えられる。

【数学】

- ・2年生の正答率の割合が県に比べて高かった。「範囲の意味を理解している」の項目では、県平均より16.9%上回っている。グラフの読み取り、定義域、値域を理解できている成果だと考える。また「垂直二等分線について理解している」の項目では、県平均より15.6%上回っている。垂直二等分線の特徴や、作図指導を丁寧に行っている成果だと考える。

一人一人をより伸ばすための取組

- ・授業において、一人一人の生徒が自分で考える時間を確保するとともに、仲間と学ぶ活動を取り入れるなど、生徒を主体とした授業を展開する。
- ・目標にたどり着いて、できたこと、わかったことなど、学んだことを実感できるように丁寧に振り返りを行う。
- ・一人一人の生徒の非認知能力を向上させるために、個に応じた声かけを授業のみならず、エデュケーション全体を通して推進していく。
- ・ICTの効果的な活用方法を共有していく。